

地域で子どもを育てていくために 自分にできることから始めましょう

昔は子どもたちの面倒を見てくれる人が地域にたくさんいました。たくさんいたというよりは、自分の子どもでなくてもみんなが子どもたちを見ていたという感じでした。中には、ちよつと怖いおじさんや口うるさいおばさんなどいましたが……。

現在は、昔と同じようにはいきませんが、いろいろな形で子どもたちの面倒を見たり、その親への対応を行ったりしている人がいます。ここでは、いろいろな形で地域での子育てに関わっている人の活動や声を紹介します。

少しでもみんなの助けになれば

びわ地域子育て支援センターで開催されている「のびのびひろば」でボランティアを始めて4年目になる中川まいさん（南浜町）は、そのきっかけを「のびのびひろばでお世話になった先生から「一緒にやりませんか」と声をかけてもらい、少しでも先生の助けになればという気持ちと、子どもが幼稚園に入園し、少し手が空いたのでやってみようと思って始めました。」と話してくれました。

また、「今後は、子育て中のお母さんたちが、私と同じように子育てで悩んだりした時、先生やお母さんたちと話すことで元気になれるよう「のびのびひろば」が続いてほしいと思っていますので、そのお手伝いを続けていきたいです。」と抱負も語っていただきました。

←のびのびクリスマス会でボランティアとして活躍する中川さん（右から2人目）。



←↑あざいブレスク2のイラスト教室でイラストを描く赤田さんと子どもたち。

好きなことを子どもと一緒に

小学校の文集に絵本作家になりたいと書いていたくらい、小さい頃から絵や絵本が好きだったという赤田亜由美さん（高畑町）からは、「子どものうちにいろいろなことを体験し、楽しんでほしいという思いから、あざいブレスク2でイラスト教室を開催し、子どもたちと一緒にイラストを描いています。子どもたちと絵を描いていると童心に戻れるし、ほかのことが忘れられるのと、自分もリフレッシュできます。」と趣味・特技を生かした活動をしているという、お話をいただきました。



赤田さんは、昨年、子どもたちに「自分らしく自信を持つて生きてほしい」というメッセージを込めた絵本「まんまるちゃん」を出版されています。

今後の抱負をお聞きしたところ「子どもの頃、絵本が好きで、絵本からたくさんのお話を学んだので、今の子どもたちにもそういう体験をしてほしい。今後も絵本を通じていろいろなことを伝えていければ。」というあつたかいコメントをいただきました。



子どもをありのまま認めてあげて

お母さん元氣プロジェクト代表で、個性心理学研究所・カウンセララーの宮川美智子さん（祇園町）は、「人はみな得意なことでも苦手なことも持っています。その中で一生懸命頑張っているんです。まわりと比較して、「なんでこれができないの?」と親から言われたり、また子ども自身、人と自分を比較して劣等感を感じることはありますが、輝き方は一人一人みんな違うんです。ありのままの自分をよく頑張ってきたね。一生懸命やってくるやん。」と認められたとき、生きる力や自分を大切に思える気持ち芽生えるように思います。子どもたちはみんな無限の可能性を持っています。大切なものはいつだって自分の中にあります。「ボクは本当は何がやりたいんやろ」など、心に問いかける時間をぜひとってほしいな。」と話していました。

子どもと地域のつながりは「声かけ」「見直し」「体験」を通して

滋賀文教短期大学教授 大下 二三子さん



次は、子どもとの関係を「見直す」ことです。普段はあまり子どもたちと一緒にできることはない人でも、日常生活や地域活動の中で子どもたちと一緒にできることは何か「見直す」ことが必要です。さらに、子どもたちが成長する中で大切なのは体験すること。つながりや関わりがないときは行政や協力者を通じて、つながりを持つようにすることが大切になります。肩を張らずにできることから始めましょう。

おばあちゃんになっても

「長浜おやこ劇場」の活動や、学校の図書ボランティアなどを通して、子どもと関わりのある活動をされている原田まゆみさん（大津市）は、「子どもは、純粋で素直な心を持っていて、元気をもらえる存在なので、おばあちゃんになっても現在行っているような児童文化活動を通じて、子どもたちとつながりを持っています。」と語ってくれました。

↑子育て中のお母さんを対象に講演をされている宮川さん。

その他にも、地域では、本の読み聞かせを続け社会参加賞を受賞されたジーバーこぼこ（17頁参照）や、各学校・図書館で絵本の読み聞かせをされているボランティアさんの活動が盛んに行われています。さらには、一昨年、田根地区で発足した子ども見守隊など、地域で子どもを見守り、育てる取り組みも拡大しています。昨年4地区で発足した地域づくり協議会でも、地域の課題として取り組まれることが期待されています。

地域が輝くために

まずは、みんなで子どもを育てるという意識を持つこと。そして家庭は自分の範囲をしっかりと自覚し、家庭で対応できないものは地域が補い、その他の部分が行政が担っていくということがポイントではないでしょうか。

また、子どもがのびのび育つ環境というのは、子どもたちを産み育てる若い人たちが住みたくなる環境にすることです。

そのためには、今の若いお母さんが安心して暮らせ、楽しめる場づくりが大切であり、長浜に住んで良かったと思えるまちづくりが必要です。

地域を守り、まちを活性化するためには、子どもたちが地域を愛し、そこに住み続けてくれることが大切です。子どもは地域の宝であり、まちの宝です。その宝をもっと輝かせるために、家庭は家庭で、地域は地域で、行政は行政でできることをしっかりと果たしていきましょう。

「子どもが輝き、みんなが輝く未来のために」